

## 親の尻ぬぐい

【先に何があるか想像する力がリスクマネジメントとしても必要だ。ましてや、この生徒たちが高校へ行って私の息子と同級生になるかもしれないと、なぜ考えなかったのだろうか】

いつものように帰宅し、夕飯後テレビゲームに興じていたときである。息子が2階から降りてきて、開口一番こう言う。

「なんだおやじ、帰っていたのか。俺にあいさつがないじゃないか。」

何で、そんなことで文句を言われなければならないのかと思いながら、

「ああ、ゴメンね。」と言うと、となりに座って私のゲームを見始めた。そして、

「今日、授業の時先生が『武田のおやじに教わったことある人』といきなり聞いたんだよね。」と話し始めた。さっきの横柄な口のきき方とはずいぶん違う。

「そう。何でそんな話になったんだ？」

私の質問には答えない。

「それから、おやじの話が出て、俺は自分の顔が赤くなるのがわかった。もっとまじめに中学校教師やれよな。」

と、きたもんだ。

「なに言ってんだ。お父さんほどまじめに教師をやっている人はいないんだぞ。」

まあ、そんなことを言っても信じはしないが……。

「Kは、中学の時理科係をしていたそうだけど、職員室に次の授業を聞きに行くと『なんか、一発ギャグをやらないと教えてあげない。』と言われてたって言ってたぞ。『あれはつらかった』とKは言っていた。」

そうだなあ、確かにそんなこともあった。

「Aは、『授業中いきなり“ガオー”と言った。』とか言ってたぞ。」

そんなこともあったかもしれない……。

「何か、授業の半分は違う話をしていたそうだな。」

そういうことも、あったような気がする……。

「大丈夫。俺がそのたびに『悪いな』とか『すまん』って、謝っておいたから。」

「あ、ありがとう。」

そうかあ、私の尻ぬぐいを息子がするようになったのかあ。知らない間に、子供は成長するものだ。

「でも、おやじはイ先生だったて、言うやつも多いぜ。」

と言って、2階に上がっていった。

もっとまじめに理科教師をしなければいけない。